

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その123

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

NISAを通じた郵政3社株買付は大手証券5社で820億円!
郵政上場のあった11月のNISAでの人気は既存投資家が
REITやグローバル株、新規投資家がグローバル株や日本株!!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

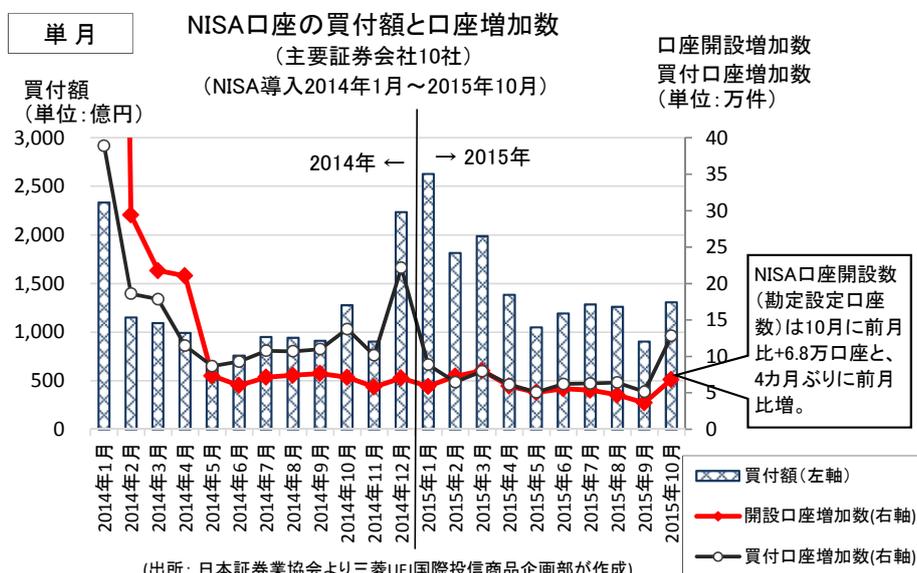
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA を通じた日本郵政グループ 3 社株の買付額は大手証券 5 社だけで約 820 億円!

NISA(少額投資非課税制度)2年目の2015年も残り1カ月を切った。本年分のNISA投資のタイムリミットが意識される中、投資の未経験者や久しぶりに投資を始めようとする人はもちろん、投資経験者にとっても、これまでNISA口座では実際、どのようなものに投資されてきたかは参考になるだろう。そこで今回は、先月11月までのNISAで何が買われたかを見る事とする。

11月と言うと、11月4日の日本郵政グループ3社(日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険)株の上場があった。3社合計の売り出し規模は1兆4362億円と、1998年10月22日のNTTドコモ上場に匹敵する大型上場で、1987年2月9日のNTT上場以来の民营化となる。10月15日には同3社を主な投資対象とする投信が約56億円を集め、その後も資金を集め、現在80億円近くとなっている。日本郵政グループ3社株の上場は投信、そしてNISAに影響を与えている。

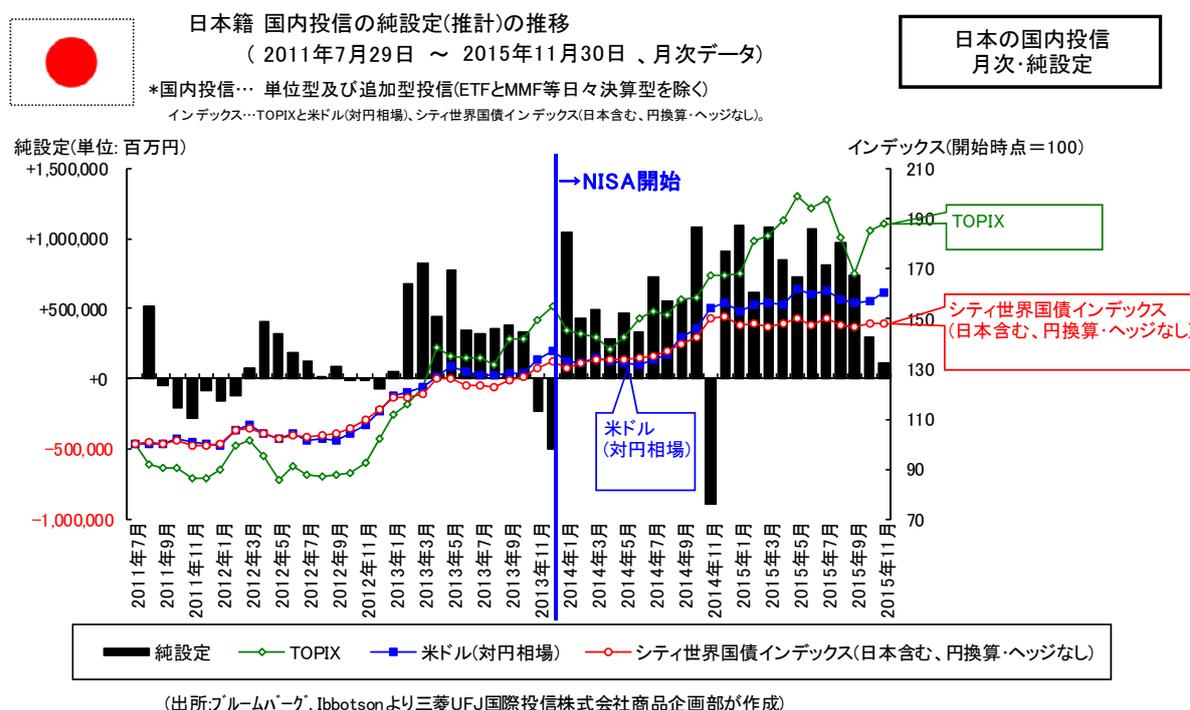
11月19日付日本経済新聞電子版によれば、「少額投資非課税制度(NISA)を通じた買い付け額は、大手証券5社で約820億円、買い付け件数は約28万件だった。…(略)…。上場時に大手5社で郵政3社株を購入した投資家は、金額で1割、件数で2割ほどがNISA口座を利用したとみられる。…(略)…。郵政3社株への投資で初めてNISA口座を使った投資家も多い。」だった(URLは後述[参考ホームページ])。同3社株買付額を件数で割ると、1件当たり29万円ちょっととなる。大手証券10社によるNISAの1口座当たりの平均購入額は10月末時点で70万1683円だったので、投資上限枠100万円まで平均で30万円弱と、同3社株買付額にかなり近いものだったことから、残ったNISA枠を使った既存投資家が多かったものと推測される。ただ、日本証券業協会はNISAの勘定設定口座数の増加が10月に8月や9月に比べて伸びている事を指摘、11月の上場・買付に備えた新規投資家もいた可能性を示唆している。12月16日午後に見込まれる日本証券業協会の11月NISA投資動向を待ちたい(URLは後述[参考ホームページ])。



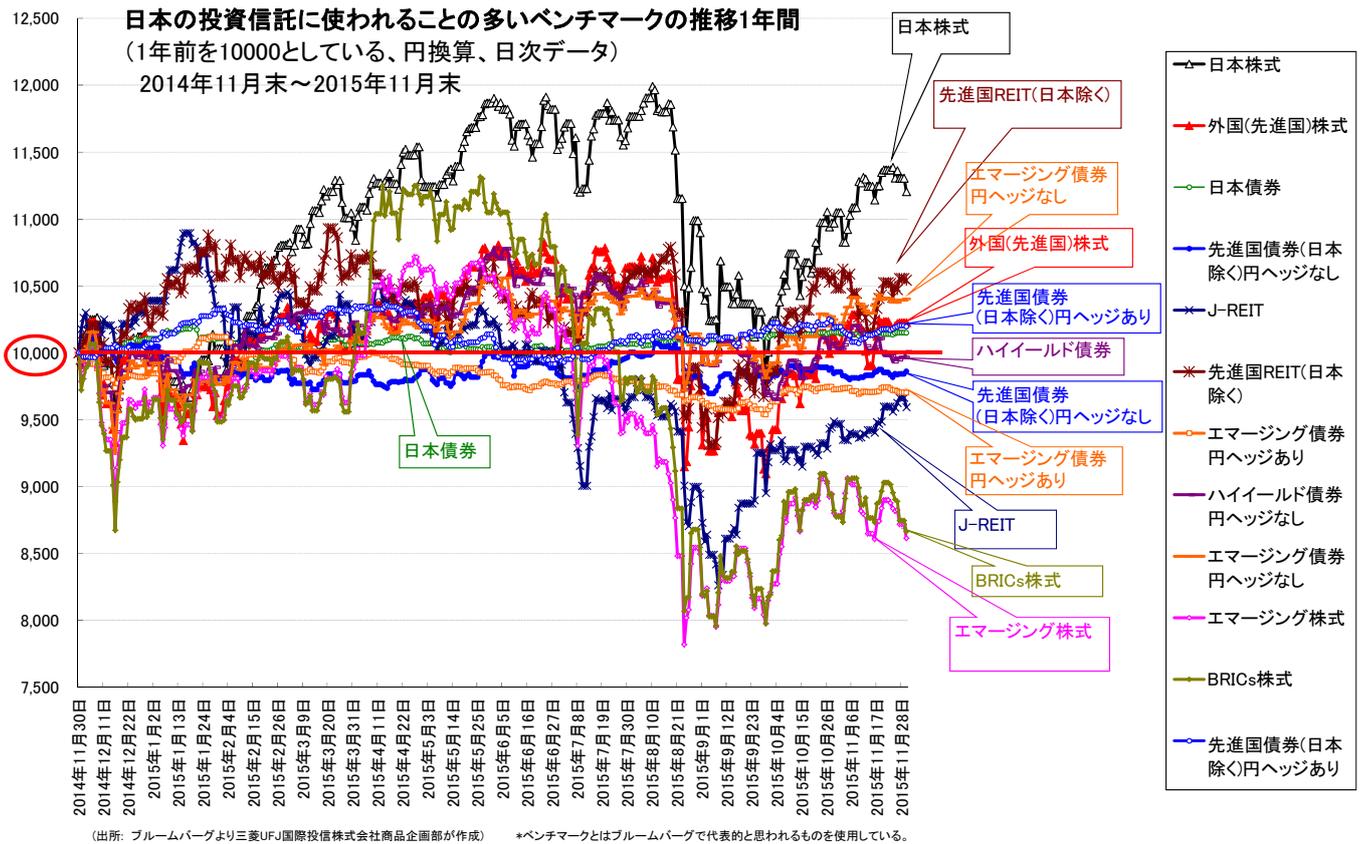
郵政上場のあった11月のNISAでの人気は既存投資家がREITやグローバル株

冒頭の話に戻り、先月11月までのNISAで何が買われたかを見る。当コラムでは、投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分けて見ており、前者の既存投資家は投信全体の動向で代替、後者の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替している。

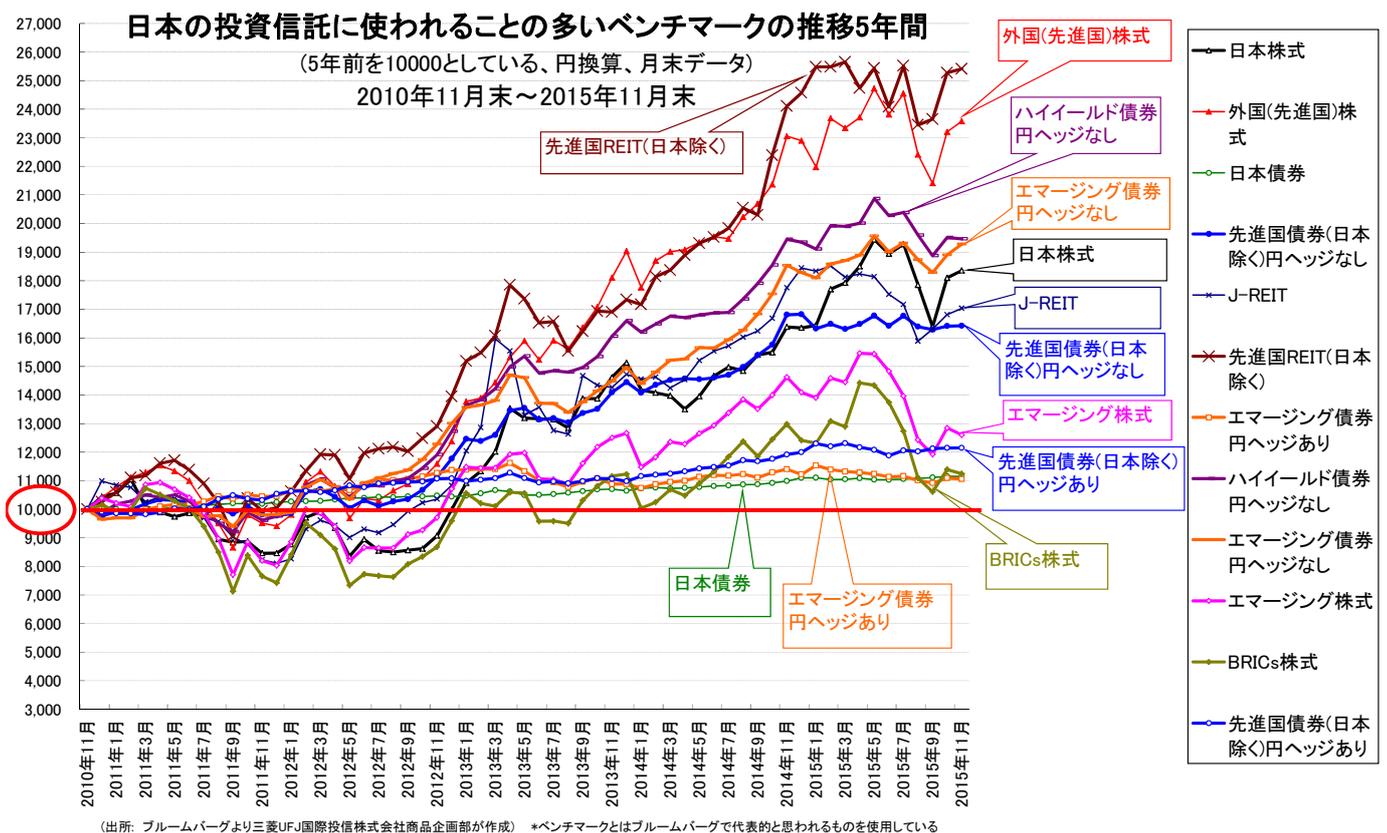
まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は、2015年11月に+1150億円強の純流入だった。前々月9月の純設定額が+7420億円強、10月はその約4割の水準の+3000億円強、そして11月も前月の約4割の水準の+1150億円強と、大きく急減している。



足元の急減は気になるところだが、前年や2年前と比べるとそれほどでもない。1年前の2014年は急激な円安・株高により10月は1兆円超えの純設定となった後、基準価額の上昇からいったん売却する動きもあり、11月は日本株を中心に約-9455億円という1993年3月以来の大きな資金純流出だった。2年前の2013年11月は軽減税率終了にかけて投信の解約が膨らんだ時である。今年2015年は8月のボラティルな相場展開から足元で落ち着きを取り戻しているなか、前年のような投資が行われるならば、12月は再び投資が膨らむ可能性があるだろう。

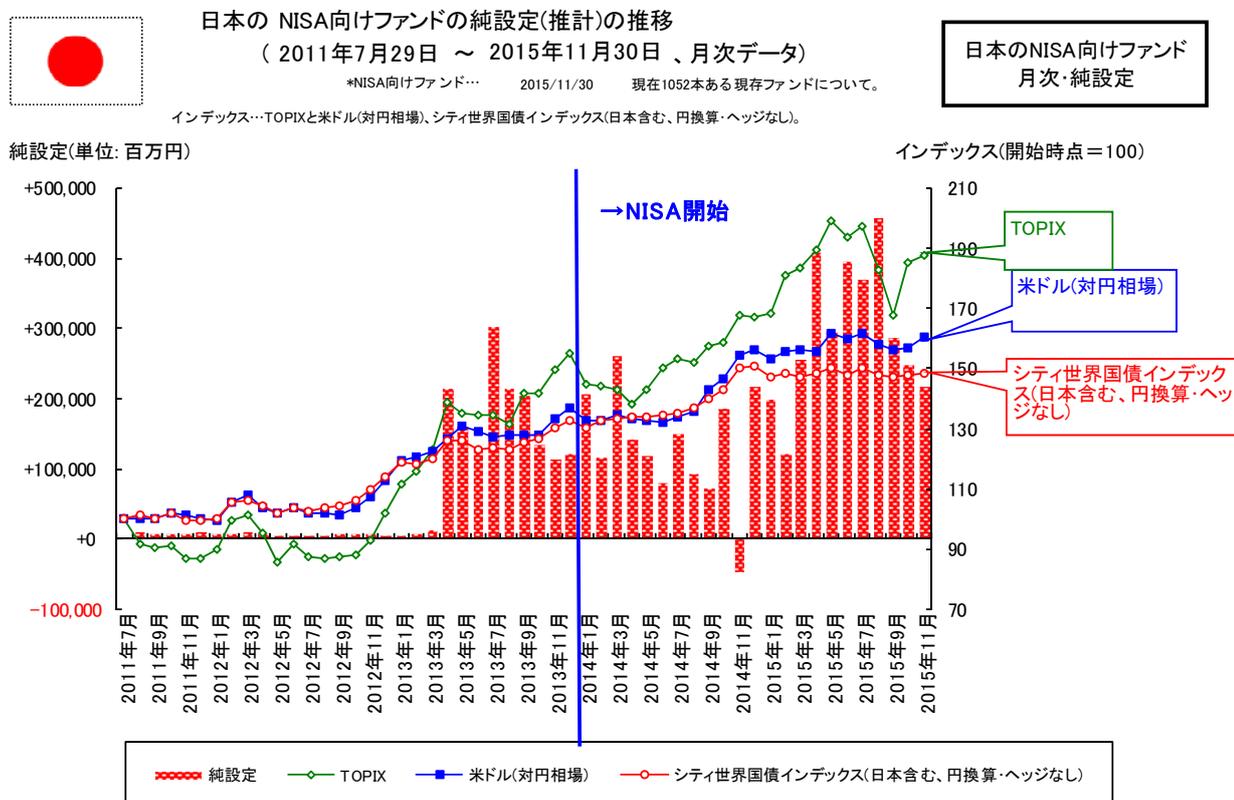


下記グラフは5年のパフォーマンスで、好い順に、先進国REIT、先進国株式、ハイールド債券、エマーシング債券、日本株式となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



郵政上場のあった11月のNISAでの人気は新規投資家がグローバル株や日本株!!

次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見ると、下記グラフの通り、最新2015年11月に+2160億円強とNISA開始(2014年1月)以来最大だった今年8月(+4500億円強)の5割弱の水準だが、2014年12月から12カ月連続の資金純流入となった(*NISA向けファンド…後述※1参照)。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

新規投資家は若年層が多いと思われるが、この若年層のNISA投資が伸びているという事については、金融庁の「NISA口座の開設・利用状況調査」(2015年6月末時点)で、「30代以下のNISA買付額の増加率は18.9%、NISA口座数の増加率は8.5%とそれぞれ年代別で最も高い(*2015年3月末から6月末にかけての増加率)」という事に示されている通りである(URLは後述[参考ホームページ])。

この新規投資家と思われる投信の2015年11月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、純流入1位はグローバル株で、2位は、2015年4月から7カ月連続1位だった日本株、3位は日本マネー・プール(同4位)、4位はアセットアロケーション柔軟型(同7位)、5位はその他オルタナティブ(同3位)となっている(日本マネー・プールおよびアセットアロケーション柔軟型、その他オルタナティブは、下記グラフで「その他」に含まれる)。

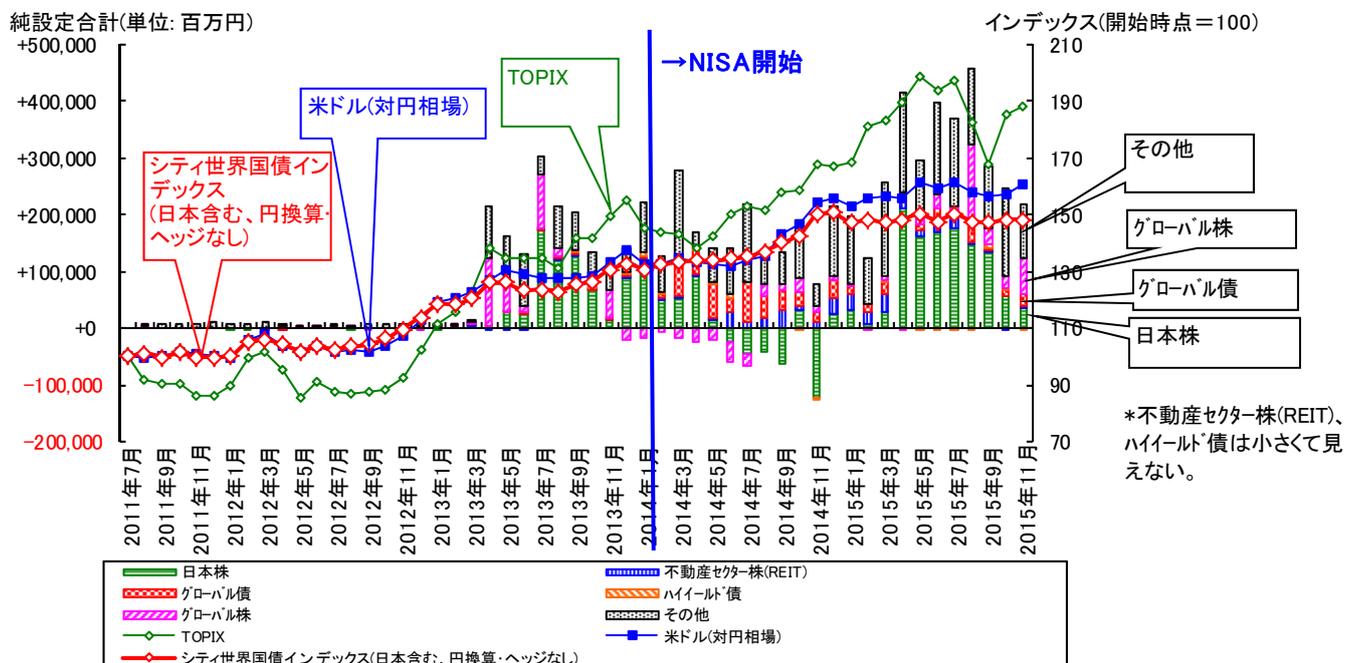


日本の NISA向けファンドの純設定(推計)の推移
(2011年7月29日 ~ 2015年11月30日、月次データ)

*NISA向けファンド…ETFを除く追加型

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定
主要分類別



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

既存投資家では8カ月ぶりの純流出となった日本株は新規投資家では純流入は継続であるものの、大きく純設定額を減らしてはいる。5位の「その他オルタナティブ」や3位の日本マネー・プールだが、これは前月に引き続き日本株のブル・ファンドなどブル・ベアファンドや、スイッチングによるものが多い。

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2015年11月30日時点で1052本となった。

ネット証券での人気は日本株・グローバル株

ここで、各証券会社の集計結果も見る。2015年12月4日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券では最新 2015 年 11 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1・4 位は日本株ファンド、2・3 位はグローバル株ファンド、5 位はアセットアロケーションファンドと、前月 10 月と同じだった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 2015 年 11 月 24 日から 11 月 27 日までは、1・3 位は日本株ファンド、2・4 位はグローバル株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。約 1 カ月前の 10 月 26 日から 10 月 30 日までは、1 位は日本株ファンド、2・4・5 位はグローバル株ファンド、3 位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

○カブドットコム証券では、2015 年 10 月の NISA 口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3・4 位は日本株ファンド、5 位はグローバル株ファンドとなっている。前月 9 月の NISA 口座買付総合(約定金額)ランキングを出しており、1 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2~4 位は日本株ファンド、5 位はアセットアロケーションファンドだった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 2015 年 11 月 23 日から 11 月 27 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・4 位は日本株ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3・5 位はグローバル株ファンドとなっている。約 1 カ月前の 10 月 26 日から 10 月 30 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1 位はアセットアロケーションファンド、2・4・5 位は日本株ファンド、3 位はグローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015 年 11 月 23 日から 11 月 27 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・2・4 位は日本株ファンド、3・5 位はグローバル株ファンドとなっている。約 1 カ月前の 2015 年 10 月 26 日から 10 月 30 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・3 位は日本株ファンド、2・4 位は不動産セクター(REIT)ファンド、5 位はグローバル株ファンドだった。

<NISA 積立~2015 年 12 月 4 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2015 年 11 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位はアセットアロケーションファンド、5 位は新興国株ファンドとなっている(*1・2・5 位はインデックスファンド)。

○カブドットコム証券では、2015 年 10 月の NISA 口座積立総合(約定金額)ランキングを出しており、1 位はアセットアロケーションファンド、2・3・5 位はグローバル株ファンド、4 位は新興国株ファンド(*1~5 位すべてインデックスファンド)となっている。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、2015 年 11 月 23 日から 11 月 27 日までの NISA 口座では、1・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3 位は外国債ファンド、4 位は日本債ファンドとなっている(*1~4 位まですべてインデックスファンド)。

ネット証券では引き続き日本株の人气が強く、次いでグローバル株、アセットアロケーションファンドが人気であるようだ。上述したネット証券のものは、買付のみであり、先述した既存投資家・新規投資家では解約分も含めた純設定でみているため、前者で日本株が上位にあり、後者で日本株の人气が減ってきたことは、日本株も買われているが、解約も大きいことが示されている。

以上、NISA で何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、ネット証券の順で見てきた。11月はグローバル株が人気。その他、既存投資家ではREIT、新規投資家やネット証券では日本株やアセットアロケーションも人気だった。

金融庁が2015年10月1日付で公表した「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書によると、NISA口座を既に開設しているのに投資を行っていない理由として、20～40代の若年層に最も回答の多かったのが「どの商品に投資するか迷っているから」(52.0%)だった(※投資未経験のうち、投資関心層の回答～URLは後述[参考ホームページ])。「株の銘柄も投資信託も多い。…(略)…。投資は自己責任というイメージがあるので、きちんと自力で見定めてから購入したいが比較対象があまりにも多すぎる。投資を始められない理由はそれが一番大きい。」と言う声もあったと言う。当コラムがこうした投資の「壁」に対して、少しでも参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

日本証券業協会「http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/kaiken_h27.html」、2015年11月19日付日本経済新聞電子版「証券大手5社、郵政3社株に820億円 NISA経由で」…
「<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO94166210Y5A111C1DTA000/>」、2015年11月6日付日本経済新聞朝刊「見えない郵政相場の先 揺らぐ日本株の相対優位」…
「http://www.nikkei.com/markets/column/scramble.aspx?g=DGXLASGD05H7H_05112015EN1000」、
2015年9月15日付金融庁「NISA口座の開設・利用状況調査」(平成27年6月末時点)の「NISA口座の利用状況について」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20150915-1.html>」、
2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって？」…
「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…
「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」、
カブドットコム証券のNISA月間口座買付総合ランキング…
「http://kabu.com/item/NISA/ranking/fund_generation.html」、
SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、
楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、
2015年10月1日付金融庁「若年層を中心とした個人による投資の現状とNISAの利用促進に向けた課題に関する調査」報告書…「<http://www.fsa.go.jp/common/about/research/20151001-1.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。